漂流記『うばらがはな』翻刻と解題（4）

崎村弘文

カヾヤンより呂宋のマニーランに到るの圖」（1オ～2オ）
呂宋國地図波廉帝應の圖を摸す」（2ウ～3オ）
呂宋瑪嫋郎港之圖」（3ウ～4オ）
澳門の図」（4オ～5オ）
カガヤンよりマニーランに至る海上島嶼の圖ハ儀へ衛か製（ツク）る／ものなりその餘（ホカ）なるハハレンテインより寫し出せるなり／澳門（マカヲ）の圖のごときハ八丈人のいふ所と少し異（コト）なる事／あれどしバらくこれを掲（カ）げ置て後の考をまつのミ」（5ウ）

呂宋日記

四月五日空晴る今日は風少も吹かず其上海深からねバ帆をまき走るべうも／なし故ニ手馬をおろしこれに碇をのせ二丁斗先へのせ行て碇を沈め／そが綱をたくりつゝ船をよせ又手馬に碇引上ヶのせ行べき先へ持行き／沈めて是をたぐりよするかくするをくりはえといふ也しかくりはえて／一里斗ゝも船寄けれバ大なる川口あり幅ハ三町もありぬべし多くの大船／爰にかゝり並ふ此川の落口を浚（サラ）（ママ）ら へゐたる調度こそ見も及ひ聞も／習ハざるものなりける（ママ）鉄の柱を四本立て二間四方高サ五間斗りに／作り四方上下共に鉄の貫をしげく入れ屋根は厚き板もて掩ひ鉄」（6オ）の太き横木をわたし是に鉄の車四五ツくミ合せ置き傍に同しく／鉄の廣き樋の形したるを設け又棚を作りて人の休らひ居る所とす水の／中ニハいかに作りなしけんしらず扨かの大なる車を夷二人して踏ミ廻ハせば／数の車打めぐりて自ら水底の土を堀（ママ）り興し土砂は車につれてかの／樋のさましたる中にそゝぎ入るれバそれより流れ落る所に小舟を／よせて舟中に土砂をうけ舟一ツ滿れば外の小舟とかはりていづ地へか／持行て土を上る也車踏む夷裸になり歌唄ひつゝくるしき体ニも見えず／かく土を浚へるにつれて此家のごときがおのれといさりゆくさま誠に／ふしぎの器なり我國にも是を作り出たらばすぐれて人の力を省ぬ／べきもの也この傍をくりはえて川口に入り猶二十町餘りもすゝミ行て」（6ウ）船をとゞめぬ彼小舟に乗リし女商來りてさま〳〵の物を出しすゝめけるに／長十郎目かね一ツ銀錢出して買取りぬおのれ心の中に此もの共銀錢持／つべきやうなしこれハカヾヤンにて女などに

近つき貰ひ請しなるべし／悪しき事をぞしたれと思へど今さらかひなし此夜は川中に止る○／六日空晴陸より下役（シタツツカサ）のものと覚しきが壱人小舟にのり来りて此船に／のるこれハ守のためなりと覚えし昼比六十斗の夷一人小舟ニて来り／おのれに向ひ腹立し面地にてマニーランのパーリの書たる物をカツポン／にてハ唾をはきかけ足にて踏ミにじるとのさまをくり返し〳〵／示しけるおのれさとりえさりしがやう〳〵に思ひ出したるハ長崎／にてふミ絵とて彼キリスの形鋳たる鏡をふましむるよしかねて聞しが」（7オ）その事なめりこはあからさまにいはゞ為あしかるべしときつと考／へわざと偽てニツボン（ママ）にてハマニーランのパーリの書しものをバ／捧け尊むと額へ手を挙てミすれば此人えうそ（ママ）聞入るべきしきりに／踏ミにじるまねしたるをしかあらじと手をふりナウ〳〵とてあなかちに／やまされば此の人やがて舟をこぎ返しぬ今日も船上（アカ）りせよとの沙汰／なければむなしく船にやどる○七日空晴屋根ある舟を三人してこぎ／来りその中より白き衣の上に黒き繻子の袖紐て胸に鈕釦かけし／衣着下は白キあやある股引のゆるきをハきかしぐ（ママ）ハ頂に三寸丸斗／に髪を残してその餘ハ剃り髪毛をくり組にし腰のあたり迫下けたる人（こは支那の人にてやがて唐山の人なり／この人の名ハ趙信といふよし後にしれり）一人此船に移り我等を見て陸（ヲカ）へ上る」（7ウ）べくはた行李も皆搬（ハコ）び出すべきよしをしめすさらバ我行李をいつれへ／積んとハかるに折ふし小く細長きはしけ舟四五艘こき来りてこれへ／積なんとす我打見るに餘りに小く心もとなけれバゴロヂアンにたのミ／手馬に積バやといふにキサンとてカゞヤンより此船にたより乗りし／夷さへぎりて此小舟に荷を積ミ入れ三人も打のせ彼らか荷物は餘の／小舟につミこぎ出しけるが小舟に多くつミたれバ舟重（ヲモ）くすゝみかねしを／いそぎやらんとするなればあやまつて舟かへり人も荷も水に落ちぬ長十郎／游を心えねば両人して助け餘の舟に引あげおのれと助次郎もつゞきて／上り水に浮びたる行李を引き上る夷共皆〻力をそへ拾ひたれど十に／三ツハ流れ失せにきかくて岸に舟よせぬれたる荷を陸（ヲカ）に並らべ水をたらし」（8オ）我等も衣をぬぎ絞りたるのミにて又ぬれ衣を打着たるかくて重五郎／初め十人のものとも出来り此等を先に立て運びゆく我等ハ彼チ、ナ（ママ）人／の後につきて行けは物見の人大勢立し中を見るかげもなくぬれそぼち／たるさまにて大路をたどり行く此所のさま左右の家瓦葺にて棟高く／二階或ハ三階をかまへくらのことく白く塗りなしたる所せきなくひし〳〵と／建つらね二階に思ひ〳〵に飾りある窓を数多開き硝子張たる障子をたて／下家ハ土間或ハ石を敷それにくさ〳〵の商ひ物を臺の上に並べ傍に／こしかけを多く置き人あまたこしかけをるワジユーよりは人家大きく／凡てミやひを盡し眼バゆき斗なりその中に門戸をかまへしもありさて／三町餘り行ば七十間四方斗の二階づくりにしたる長屋かまへ（ママ）のやしきあり」（8ウ）門にハ鉄の筋かねをひまなく打たる前に釼つきたる鉄炮持し襟赤／き衣に胴乱帯たる夷三人守り居たり此門を入れハくら多く立並らび／大廈（オホダテ）にかまへし家三ツあり四方ハ長屋ニて人おびたゝしう住なめり中なる／家の前にぬれたる荷をつミをくその家の内十人のもの共がありつる処に／つれ行ぬまづ茶をのミ爰ニおちゐて四方を見るに土間の上に新に床を／かきて二間（フタマ）となしそこに我等を置しなりしハらくありて此の家の主と／ミへて年の頃三十あまりなる柔和に見えし人二階より下り来り對面し／何かいひつゝ書付たる小紙を出さる呂宋商館主大清福建金恒と書たり／重五郎傍より此人こゝの主にて我等を厚く恵ミ給ふ人としらせければ頭を／下けよきにはからハせ給へと申

述る此屋敷の門の傍に大なる役所ありこれらハ」（9オ）品よき人とおぼしが一人住ミその下官（シタツカサ）も多くあり此の人の名ハヘイドロムスと／かいひ支那人ハ大官人といふすべて表の長屋ハミなこ、の土夷住居し跡／三ツの長屋にハ支那人住めり入口毎に赤き紙に姓名を書て帖（ママ）りつけ又ハ／海門福聚或ハ百貨輻湊まれに観世音菩薩など記たるをもはれり今我等が／居し金恒の家の次なる大家は金光といふ人住ミその次なるハ金稲とていづ／れも金氏の人にて福建の大富商なるが交易のためにこ、に来れるなりと／なん扨我等ハ皆金恒の許にあれど月毎（ヒゴト）の食事は此三人かはる〳〵あづかり／聞る、よし也一日三だひ（ママ）の食（ママ）に四菜のそへものありあつきもてなしにて／カゞヤンにありしとはかくかへの違ひなりか、る処に大官人の許より土夷／二人鞭持たるが来りて持渡りし荷物を改めんといふおのれ心え船子等に」（9ウ）沙汰してそれ〳〵切り開き見せけれハ此人羽根の筆もて一〻書記したり／又夷四五人来り支那人も打交りて是を見る其中に先に舟に来りし夷一人／跡より越したる頭だちし人とさ、やき我〳〵をそと指さしモーロース〳〵と／いひけれバ頭たちたる人目を見出しナウ〳〵とて手をふりたり我何事にも心を／配り居しが此やうを見て大に心おちゐたり是ハ我等を私に数すべしやと尋ね／けるを頭だちし人手を打ふりあるべうもなしと止めけるなり事済て人〻帰り／去れバ又縄もてゆひく、り土間の内に積置きぬれたるハ取出して物にかけ／置ぬ是より十三人一ツに圓居して久〻相見ざりし情をのべかしこハいかに／ありしぞこ、はかうこそあれなど互に語りかハし誠や親子兄弟に逢たりし／心地して悦ぶ事限なし重五郎いふ去りし正月廿九日ワジユーにてわぬし」（10オ）等ニわかれ船にのりてよりかしこ爰に船が、りして二月三日といふに海にハ／出たり風並よくて同し十日に此処に入りたれどその儘舟に居てやう〳〵／十三日に陸に上りこ、に来りたりその間船の中にて食事なんどハ十人して／自らかしきたれど何一ツもあらざれバ壺の中に手さし入れ撮ミ出しくひぬ／爰に来りし後長助肥前瘡なやミ出しこうじたれど此程ハ大におこたり／快くなりぬといふ助次郎が一人アフーテンに残されし事なんと申出し夜半迠／語り盡さで寝ぬ〇八日空晴朝金光金稲こ、に入来りおのれを／呼びければ二階に行て對面す金光は四十に近く金稲も五十あまりの人／なり三人腰かけたる傍進ミ出て我等大勢厚き恵ミを給ハりかたしけなく／こそ猶此上にもよきにはからひえさせ給へと申す扨この三人に具せられ」（10ウ）我と長十郎助次郎共ニ門の脇なる大官人の許に至り扣へ居るに三人ハ二階へ／上りしバしありて金恒出来り三人を具して二階へ上る廣くかまへし処に／上の方にベイドロムス腰かけにあり六十餘り白髪なる人にて此もサンカン／なるへく覚ゆ左右には大勢立ならびこなたに三金も立たり三人出て／額づきければ金恒立べしと教ゆペイドロムス（ママ）仕形して日ならずカツポン／に送りやるよしをいはれつればともかうも為よきやうにねぎ奉るとて／退きぬ大官人もやがて車にのりて出られたるは王の所に朝するなる／べし車ハ輪を左右と前と三ツつけその上に屋根を作り後ハ革にて張り／中に腰かけ壱ツを置それにか、り轅の内馬二疋つなぎて牽せ一疋には／御者（ウマツカヒ）打乗り鞭を執りて馬をつかふ従者三人をつれたり車の上二人乗り作るもあり按に／」（11オ）海島逸誌云、四輪者駕両馬、両輪者駕一馬、四輪者前輪小而後輪大用木／為之外、數百金／王、坐鑲鑲以鐵、或如小亭、大者可坐三四人、小者可一二人、雕花彩繪、毎輪／金者、有官職及甲必丹、皆坐彩繪者、平人坐漆顔者、其座褥／悉哞彼為之、華廉奢僭也、あり大抵これらにひとしかるへし／この所柱は石を磨き建て壁は白くぬり天井も薄黄にぬりたりすべて／美敷こと詞に

のべがたし庭に長サ二間斗十貫目程の大筒五六挺を雨／ざらしにならべをくその外局〳〵隔ありて人多きさまなり此を出て／三金に申ハ潮（ウシホ）にひたりし荷を塩ぬきせバやと申けれバその事ゆるされて／皆〻打寄り湯をたぎらかしそゝぎかけて乾を熱き土（トコロ）なれば／かはく事いと早しされど今日一日にハ干あへすゆふ方金光金稲の許に／行き十人の者ともとくより厚き恩を蒙るさへあるに又打そへて煩をかけ／奉るかたじけなきをのべれば金稲いふは我福建へは琉球の船年毎に来れる」（11ウ）からそれにことづけて日本へ送らんハ易かるべしなと申さる又金稲小キ／銅錢百三十その外烟草取出ひて三金のものより贈とてあたへらる此錢／を支那の下つ役にたのミ取替けれバ錢一ツか清の錢十文にあたれり／持返り皆〻へとらせけり○九日空晴巳の刻斗表に人多くさわく出て／ミるにカゞヤンより同船して来りしキサン并にはしけ舟こぎたるをのこ二人／足架にかゝり大官人の許につれ来り糺し尋らるゝさまなり傍に四十あまり／のうつくしき女一人立そふしバらく過て出行たるが牢（ヒトヤ）に入られしとなり／後に聞バ彼キサンさへぎりて小舟に荷多くつませし故に舟かへりたるを／彼女聞出し他の國人をあしざまニせし科を大官人へ聞え上けかく召捕へ／糺明に及ぶ又餘のはしけ舟の舟子等過ちせしのミならず運ひ賃を」（12オ）我〳〵か方へ取に越んとせしをかの女かたくと〻めて夫ハ大官人より給ハらばやと／いひ聞えし故にやがて大官人より給ハりしとなん彼女ハ常に人の悪しきを／こらし善をあらハしおのこにまさりし聞えある女なりしと金恒か焚炊者／なる魯璞といふが語りきこの魯璞ハ前の年長崎へ一度至りし人にて長崎／丸山女郎よかバ鍛次屋町多葉粉やなど申て片言交りにはなし出来る人也／かく心解けかたらひけれバ我等も水くミ薪わる事より萬づかれかする／程の業をたすけやりぬ又ギストンといふ夷こゝに入来りし時よく介錯し／えさせしが日ごとに来りけり此人ハ表の家に住居する人なり／○十日雨ふるさきに舟に出迎られし人をり〳〵爰に来るこれを魯璞／に尋ねしに名ハ趙信とてこゝに久しくあり福建の人なりといふ扨魯璞なとの」（12ウ）居所に行て見るにこゝの土間つゞきの奥に手〳〵ニ床をかき棕櫚の席を／敷たり上に又蒲團をしき木綿のたれきぬをかけその傍の土間に／こしかけあり少しよき人は二階ニ住居するもありて此家の中に大抵四十人斗も／あり金光金稲の家〻も同く大勢居たり又長屋に住める支那人の中に／豆腐つくり又魚野菜商ふもあり又鉛細工縫ものするもありて一かた／ならずさながら市にあるがことし○十一日くもる日ごとに女商人さま〳〵の／物うりに来る菓子ハ筐（カタミ）に入れかしらにかづきもてくるそが中にけふハ／珍らしき菓の子（コミ）を見たり長サ三寸廻り五寸程かしら末細く惣体鱗たち／て蘇鉄の幹（ミキ）のごとく末に葉の如きが附たり皮を去りくらへバ味甘くて／たぐひなし中に小き核あり名を聞しかどわすれたりその外マンガを多く」（13オ）持て来る昼過る頃いつ方よりか魚翅（サメノヒレ）海参（イリコ）蘇枋科藤なんどおびたゝ／しう運ひ来りくらに入れ又これより茶砂糖木綿類を多く持出すこれは／をとつ日三金打つれ出行しが是ら交易し来るなるべし日くれて土夷大勢／来り支那人打交り骨牌（カルタ）を打ち賭（カケモノ）をあらそふ此中にクロス咬嚼巴人なり／髪赤く打かふり／手拭のことき被り瞳も黒く／鼻高からす阿蘭陀人長崎につれ来るもの二人も交り戯れ遊ふ○十二日空晴金恒の／下官田麟といふ人魯璞と共に来り我に向ひ近き中ニ日本へ送り帰すべし／是ハ三家より各へ贈るなりとて銀錢王面つき／三ツを渡しけりかたしけなく／うけ納め扨魯璞をたのミ錢にかへけるに弐貫四百文ありけるを銘〻へ割遣／しけり近きにも我国へ帰ると聞て皆〻よろこびあへり○十

三日空晴朝／大官人の許より使来り糸行李を持て来れといひこしぬされハ金恒にその」（13ウ）由を申くらの内より出し船子に持せつゝ金恒とおのれそひて大官人の所に／至りければペイトロムス立出てこれを開かしめ秤（大なる天秤なり）にかけ見るに十一貫七百目あるよし金恒しらせたり扨此糸を買ひ納めばやとのぞミける／をいかせんと金恒にはかりけるに否といふべしと教えければ賣ぬよしを／示しける扨こゝを出て帰り心に思ふは此糸をバ金恒もほしきさま也／此ほど我等厚き恵に逢ひつるむくひに此を三ツに分ち三金へ送ら／まく定めたれど彼より返し越さゞりき○十四日空晴る昼過ゟ金光／金稲こゝに来りおのれをも呼けれバやがて参るに例のごとくこしかけ居ゑ／我へもこしかけすゝめて夫による扨高き机にさま〳〵の肴を取つらね／酒を互にくミかハすはなむけの心なるべし金恒いふハこゝにある胡新風と」（14オ）いふはいたく心あしきものなり明日ハ大官人よりパカタ百枚を胡新風／取傳て贈るべしその時彼が手を經ずして大官人より直に請取べしと教え／らるこは定てやうある事ならめと思ひ心得たるよし申たり猶くさ〳〵／の物語の後に金稲申ハ我福建迠伴ひ行き琉球の進貢船にのせて／日本に帰さん事心易きに此事大官人にはかりしかどうべなハざりしが／残り惜しといはれたりとかくする程に酒もあまたくミそへて三金も／心地よげにゑひ我もいたくゑひ出て此座にたまらずいとま申ており立て／そがまゝに打卧しぬ○十五日空晴朝とく土夷二人来り金恒と申合我等を／呼ひ今日日本に送り返すべければとく船にのり行李をもつむべしと／いふ皆〻悦びかたじけなきよしを申述さて荷物取出さんとする所へ」（14ウ）趙新出来り皂隷に沙汰して運びやらむ又大官人の許ゟ三金の人〻／おのれを具して参るへしと申来るやかて此人〻と打つれ門脇の二階へ参り／ければ大官人上の方にありて其下重役十人下官大勢居並らび三金と／外ニ二人都合五人立たる次におのれ出けれバ大官人何かいはれけるがさとら／れす金恒傍によりパタカ百枚を贈られぬれば新風より請取るべきと／傳へらるおのれ大官人に向ひパタカ多く給ハりかたじけなくこそあれあはれ／同しうハ此処にて直に給らバやと申けれどもかれにもさとり得ずして／チーナにてパタカなき時ハ食にも事欠くべければ贈りつかはすと仕方／なからニ申されける金光も右のパタカを新風よりうけとり是よりさきのつひえ／にあつべきといはれければせん方なさに大官人へ此程の礼をのべかへり」（15オ）申つゝ額き扨下ゟおり新風にパタカを請納めばやとするにはや何地へか／行けんあらず金恒にすがりてかの人尋ね出し請取給ハれかしとたのミ／ければ金光金稲もあやしとておのれと四人してかしこ爰尋ねありき／ける十人のものハとく舟にのりはてたれど我ハいまた新風に逢ず金恒／あまりに尋ねわび船場のこなたなる茶屋の如き所へ我を伴ひこゝに頼ミ／をきしバしまてとて出行けり此間いたくひまありけれバ此家の主と／見えたる人出来り二階へ伴ひ行くこゝには鳥あまた飼をきうつしく（ママ）五色／なる鳥もありあふむいんこなんどハ目馴しかどその餘ハ名もしらぬが多かり／白あふむの鳥の鳴音人の詞をたくミにまねぶもあり手にすゑ肩にとま／らせなんどするになれゐつゝ飛去る氣色はなしかゝる所に程經て金稲」（15ウ）胡新風を伴ひてそ来りたるパタカを請収めんといへばチャンパンにて渡す／べしと云さらバとて主にいとまをつけ立出て新風がこゝの役人（ツカサヒト）の乗り／たる舟に入るを見て後金稲に此程の情述べけふハ新風か事にてわづらひを／かけたるをわび猶金光金恒へよきに言傳給ハれといとまを告て立別れ十二人が／乗りし舟にぞの

りにけるけふは祝ひの事ありてや川のあなたの方にて／大筒をつゞけて打つ黒烟りおびたゝしう立のぼり魂をひやす斗なり川口を／出はなれ一里程行て申の刻斗に本船にのり荷物をうつし入るかの新風／も土夷の役人と共に本船にのり移りければいそきパタカを請納めんと／いふに新風銀錢五十枚取出し此内よりはしけ舟の料とて二枚を引きて／四十八枚をぞ渡したるハ八五郎してその数を数へ正させ扨申けるは大官人」（16オ）より百枚を給るよし金恒傳へられしにそれには数たらぬよしをいへば新風／かしらをふりて左にあらず金恒が過り傳へし也といふ今しもあらそふべきよし／もなくて請納めぬこは新風にたバかられ半をバかれが私せし物なるべし／此人身をかくし全くかすめとらまくせしを三金に尋ね出され心ならず／半を渡せしなり此人心あしきよしハさきの日三金の人〻ひそかにしらせら／れしにぞしられける扨官人等（ツカサヒト）カビタンへ我等を渡し小舟にのりて艚き／帰りぬ此船はマニーランの船にて名をバサンクローセイシといふ絵にかきし／阿蘭陀船のことく大サ二千石も積ぬへし柱三本立て帆は木綿にて六七十／斗りあり帆縄は弐百筋もかゝれり船の外ハ銅もて張り舳には人丈より／大なる人手あけて指ざし居る形を彫り金箔をおしたりこれハサンクローシ」（16ウ）と云水神の像（カタチ）なるよし大なる木の碇二ツいつれも鉄鏁りをつけて綱に／代ふ石火矢四挺つゝ左右八挺そなへ傍に升籠に小石を夥しう一挺ことに／備へをく舮には楫を具へ傍にカヒタンの局を二ツ作りそれよりつぎ〳〵に局を／多く作れり凡船の上ハ板にて張りわたし表の処船底に下る口あり梯を／經て下り見ればさま〳〵の積荷水桶牛豚雞なんど飼をく所もあり／常は此入口の蓋ひを閉ぢをくカビタン二人あり一人ハ五十あまりの人ニて／ビセンテイウンシイ一人ハ三十四五にミえてもいふ（ママ）ギヨクエと○ビロート一人／ゴロジアン一人グルメイテー九人マルメイテー八人又福建人二十人我〳〵合て／五十四人乗りたり我等食事等ハ福建人とり／日くれ前に帆をまきて船出せしが／程なく日暮ぬ手馬のかげにアンペラの席布き竹を引切たるを枕（マクラ）して」（17オ）打卧しぬ十人のものハ去ル二月十三日マニーランに上りて今日まで六十三日あり／我と長十郎助次郎はさる七日船上りして今日までわづか九日になりぬ是〻／又いかなる所へ送りやらるにや覚束なく思へど只我国に近つくを楽ミとして／日を送れり○十六日空晴る夜の中に船はるかに走りつと覚て多の／島〻も後ろになしマニーランの山も遠くなりゆく船ハ亥子の針にて／走る船の上蔭なくて熱サ堪へかたし湯茶なんどもなし夜に入て空／くもり雨ふるされど立かくるべき所なし猶手馬のかげにかゝまり居る／○十七日空晴風すこし吹帆をまく事六十あまりグルメイテー縄梯を／走り上り帆をやり出しさま〳〵に帆縄をあやつるありさまは人の業／とも覚えず此帆縄弐百筋もあるがそれ〳〵に名有りて静なる日には」（17ウ）此をマルメイテーに教ゆるなりゴロジアン三尺斗の鞭持て立つゝマルメイ／テー一人ツゝ呼出しその縄の名を呼バマルメイテー走り寄てその縄をとる／又餘の縄の名を呼てはその縄をとりやる也数多く数（アタマ）（ママ）だびする中にハ／縄の名を覚えたがへてあらぬ縄をとらゆれバかの鞭にて一ツ打つかく違え／たるが三度に過れバいたく打るゝなりこれにかハりてその呼縄（ヨブ）をたがへ／ずいく度もとりすませバ甚た美（ホム）るさまなりかくして常に習はざれば／風波のをりゴロジアンの指揮に應しがたきよしなりかくのごとくいく／たりともなくためし試ミる事日毎にいとまあれバかくする也カビタン、ギヨク／エゆふ方空を詠め居たりしがグルメイテーを柱にのぼせ帆数を減（ヘラ）し／左に

やり出したるをバ皆取りたりいがでかくハするぞといぶかしく思ひ」（18オ）たるに日くれはて、後に西風大に吹出たり扨こそ帆数を少せしなり／けりと此業にすぐれたるをかんじあへり○十八日空晴風なきたり帆を／多くかけやり出し帆に又孫帆をかけわたすきのふのごとく縄の習ひ／あり脇より見居て少しハ縄の名もおほえぬ夕方になりて徳藏萬介／何事をかいひあらかひせしがはては立上りつかミ附くミ合ひおしにじる／ギヨクエ是を見て鞭をあけて二人をしたゝか打つ我をりふしビロートの所に／ありけるがかくとミるより飛行て侘ければキヨクエ打笑ひシイ〳〵とて入に／けり我両人を叱りて事鎮まりぬ○十九日雨少し降風なぎたり帆を／多くかけつらねけれど船行こと遅しいづ方を見ても山もミえずことに空／くもり他の帆かげたに見えずカビタン短き遠目かねを持てかしこ爰を見」（18ウ）まハす我こひうけ手にとり見るに卵形につくりたるものにて長サ四寸／廻り八寸もありぬべし真鍮にてはりこれに細き草花を彫り金銀をちり／ばめ其巧ミなることいひ盡すべうもあらずカゞヤンよりマニーランにいたるまて／さま〳〵のもの見たる中に銀を飾りたる調度ハありしかど金を用ひたる／是始にてぞありける此たゝ中に硝子入て覗きミる所ありそを眼に／おしあてかた眼をすがめて見るに鮮なる事たとしへなし凡は五十里／あまりの遠もまのあたりに見るべくかゝる器の世にあるべしとハしらざりき／按るに器物の奇巧なるハ西洋の外又他あらざるべし千里鏡の精巧なる本より／言をまたずしてしるなり又屈曲して遠を見るの器ありと王文海はしるせり／西船いまだかゝるものをつたへずはたしてあらましかばこれぞくすしともめで／たしともいふべきこゝにやうなけれど千里鏡の序にかの文をしるす千里鏡、／能観遠景者、無足称奇、有屈曲管者、能観其室之偏隅、房中幽隠之處、無／不遍及其佳者毎管價値數千金、用以禦敵、可望敵營中、能週知其虚實、女」（19オ）衣壁人數多寡、洞見／底裏、誠鬼工之奇枝也、ウンシイも同しさまなるを持てりこれらハカビタン／のなくて叶ハぬ調度なるべし金数多持たらんにはかへまほしき物なれ／かくて夜に入ても風吹出てず○廿日くもる西風吹出したれば片帆に／して船ひらき走る○廿一日空くもる風なぎたり昼過る頃大雨しきり／にふり来り手馬のかけ狭くてしのき侘ぬ日くれに雨やミ酉のさかり／に南風立来りて波さわがし空もむら〳〵にはれゆく○廿二日空晴南風／強く帆数少なかりしかど船ゆき速なり○廿三日南風きのふより烈し／波高くて船ゆり上げゆり下しすれども恐るゝ氣しきなく走らせやる／我國の船にてハ中〳〵乗り得べくもあらず昼過る頃風はたとやミたれと／波は猶しつまらずかゝ所空俄にくもり大雨しきりに来るかゝる所に」（19ウ）東にあたり黒雲一むらまひ下り海つらをかすむれば波立ち潮湧くさな／がら龍の尾たれて水まき上るがごとししバしして光りほどばしり出て／やがて雲ちり雨やミぬこは龍まきとて我國にて常にミる事なり按に世に／龍巻といふは常にある事にてことに夏秋海上に多くあり漢土に龍掛或ハ／鼠尾なん／ニ云龍吸水俗云鼠尾、どいふことは旋風なるよしハ向に偶談中にしるしぬ海島逸誌／大海之中風雨盡晦、有黒雲一片如針下垂、漸低漸／墜、至海者則水為之濴洄湃遠者無妨、近則焼鶏羽放花炮、而水櫃水桶、／皆當謹慎用棉被或用衣服覆蓋、不然盡被吸去矣、海水味鹹、騰而為雨／則淡、是天地好生之德、不可測議／龍巻を避るてだてなり者也この鶏羽をやき花炮を放つといふハ／船人のしらで叶ぬ業也／ゆふぐれ空はれ亥子の方に當りかすかに山を見る／○廿四日空くもる南風に帆数あまたかけて走る程にはるかに見えし／山やう〳〵近う見るこれハイシラ、テメーといふ大山ある島なり程經て此島／のあたり過る比又ゆく手に二ツ三ツ島見ゆるさて夜に入ければ猶家あるや」（20オ）をしらず○廿五日南風にて雨少しふるきのふ遠く見し島もはや後に／しつ走る程に小島つぎ〳〵につらなりミゆ中にハ人住とも覚えぬ小きが／多しこれらの間〳〵を走り行ば向ふは地方にて山も多くかさなりミゆる／昼過る比船走りつきて大なる港口に船をとゞめ碇

を入れたりゴロジ／アン陸（ラカ）を指ざしかしこなるはマカヲ北の山下なるはポリトガヘシなど／をしゆこゝより陸までハ三里あまりもあるべき物のあやさだかならず／我等マニーランを乗出してより日数十一日を經たれど風なき日三日斗も／ありておしあてにその道のりをはかるに八百里（備前の宇治甚助等か／記にハマネイランよりマカヲ／迫の海上凡五百里／斗としるす）あまりなるへし○廿六日空晴南風大に吹く我等を／送り来るむねをかねてこゝへいひおこしたりけん巳の刻斗に屋形作りの」（20ウ）船一艘向風をもいとはず押来りやがて此船に並らへつなきたれど風烈／しかりければ船ゆりうこぎ（ママ）水玉飛散りて雨のごとし今来りし船手の／者十一人ありけるが皆頭はちゞれたる髪生ひかぶり面はいと黒く目斗り／光り額に四文錢より大キなる圓き形或ハへの字山形なとを二ツ三ツ印焼（カネヤキ）し／たりその印（カネ）の形に違ひあれど十一人同しさまに焼印（ヤキカネ）したるが白き木綿の／袖細く裾短き衣に同し股引しめ皮沓はきたるは男だてなんどいふべき／ならん（宇治甚助か記にも此印焼（カネヤキ）したる人を男だてともいふべき人にてゴヲとて／こゝより七百里斗ある国の人なるが夫婦つれて此辺に来／り人に仕ハれかせぎするよしを載せたり按にゴヲは漢土に卧亜と譯してインデヤの輻湊／の地也其土／いやしき人世渡りの為に来れる也扨この印焼（カネヤキ）したるハ侠客（ラトコダテ）／にあらず／その國にて罪あるものに印焼せしなり前つ年背に印焼したるクロスを和蘭／人具して長崎に来る事あり其クロス自ら云罪ありてカラツパにて焼か／れぬと／いひたりとなん罪ある人の額に金印おす事水滸傳などにも間〻ミへて／罪の多少により印焼の数も増ぬべし猶我國の入墨の二ツある類ひなるかも）屋形の」（21オ）中央に色白く鼻高き夷帽子かつき黒羅紗の衣に白き股引のゆるミ／たるをはきたるが一人こしかけ居たりこなたのカビタンビセンテーウンシイと／物言かはせしかウンシイ我等に向ひこの船へ行李共うつしつミ十三人ともに／のり入るべしといふゴロジアン、マルメーテーに沙汰して行李を運び移しつゞ／ひて十三人もウンシイと共にかの船にのりけりウンシイ屋形の中へ入り／けれど我〳〵ハやぐらの下なる左右に腰かけあるに皆〻かゝり居る纜とく／船やり出しぬこたびは追手に六反斗の帆を引あげ風烈しきを物ともせで／走りゆく此湊と申ハ入江になりて三方小山並らび大山は近きあたりに／見えす諸國の船多くつなぎ漁り舟もいと多し三里あまり行て見ればその／さまマニーランに同しけれどはるかに小さし幅四丁あまりの川あるに」（21ウ）帆おろして舟さし入れ二十丁斗り上りにこき行ば大なる屋敷作りの／前に石を畳重たるきだありその前に船とゞめしかども川端淺くし／て舟寄らず女夷小舟四五艘にのり棹さしよせ来る舟ごとに竈を作り／家根を設けすへて舟を栖とするなり（この女舟は遊女の賤きものにて／客／世を／渡る也なき時はこのわたりはしけ舟して）此女とも舟寄て打乗れかしとすゝむるさまなれどゆるされなければ／扣え居たるにしバしありて五十斗の夷帽子かつき黒羅紗の衣に／八丈の股引（此八丈丹後を見てか、る遠き境迫／きつる事よとそ、ろになつかしかりし）はきたるがあゆミきたり／舟を傳ひてこの船にのり入り屋形の中なる二人に物語しけるが此人沙汰／して我等并ニ行李を改めて彼女舟五艘につミ入させ我等を五艘にのせく／ばりおのれも打のりて艚出さんとしけるゆゑウンシイに礼（キヤヒ）をのべて」（22オ）こぎ別れ猶上りへ三町あまり艚行て舟を寄ける爰には下役と覚しが／四五人人夫あまた引具して出たり彼年増たる夷聲かけたれバ人夫共下り／来て行李を背負つゝ運び行く我等もこゝより上り此人〻のしりにつき／て行こゝも見物いと多かりし一町あまりたとりて一ツの家に入る此家間口／十間奥行十四五間もあらん高く作りし二階家にて棟高く瓦以て葺／き柱は石を磨き立て屋根裏すへて横にぬきわたせしハ色黒き堅木／を用ひ下ハ土間には入口は三ツ開きたり石を畳し梯を上れハ二階を／隔して廣う坐をかまへ窓は硝子を入れ壁をば皆白くぬりたり下なる／土間の傍によせて高く床（ユカ）をかき

三畳斗にかまへしが一間八畳斗なるが／二間設けそれにはアンペラの席を敷たり年増りし人それ〳〵に沙汰」（22ウ）して三畳布斗（シキ）の処へ我ををきその餘ハ六人ツゝを二間に分ち居らしむ／扨彼人申やうわれハ此家の主にてシユンチヨー、スコツトといふかた〳〵を／あづかるへきむね命せられしうへは心易く思へかし用事あらバへだて／なくいふへしと仕形語りをすればこれよりもさるべくたのミ置ぬ茶を／持来り久〻にて珍らしうのむしバしありて飯二臺に卓子に五菜／をつらぬすゑて／出すを打寄りてくふ程なく日くれけれバ燈をも出したり○廿七日空／晴朝けよべのことく出す肉ものハ喰ハぬよしをしらせたれバ出さす／しバしありて女或児など来り何かいひけれど分らず又外よりも物見に／来るが多し昼頃三十斗の人来りしバし側に居て物語しけるそが中より／一人ビセンテー、スコツトといひて小指を出し見せしハ爰の息子なるべし」（23オ）此家に召つかふもの六人あり二人は色白くかしらつミ廻したるハ此所／の人にてマサオクウエイといふ一人はチーナ人にてかしらをそりいたゞき／に丸くそり残せし毛を三ツ組にして後ろに下げたるハ晏能といふ此人／をり〳〵字を書て見せける故その中にハさとり得る事多かりし餘／の三人ハクロスにて赤ミある髪を打かぶり面黒し手拭ひのごときを／被り衣ハ土夷と同しさま也マロシ、ビセン、カイノウといふいづれも二十前後／にて遠き國さきに云ゴア又ハイアハー／なんどの国をいふより世渡りのために爰らに来り人に／つかハるゝなり此内ヒゼン（ママ）ハ直実（スナホ）なるものなり此人によりて人〻の名を聞／しりぬシユンエヨー（ママ）の妻ハ四十あまりにて名をバミユーソフといふビセンテー／の妻は二十四五にてカーレンとてうつくしき生つきなり男児二人あり兄ハ」（23ウ）ヒールテス弟はハンテウルとて十才と八才にていとほしき姿也又下婢一人／あり

これハ近き田舎のものにてソンプルといふなどビセンしらせたり／是よりハ分きて世話にあづかるべきなれバとて錢を百文とらせつれバ／悦ひつゝ持行て酒のミそれが少しあまれるにて果（コノミ）なと買もて帰りくれ／たり日くれてビセンテー二階へ来れと手をとり行く伴はれて上りミればシユン／チヨウ夫婦嫁孫など居ならびたる脇にこしかけをすゝめければそれに／かゝりをる小児ハあやしミて打守りをるシユチ（ママ）ヨー子やあると尋ねけれバ／四人ありと指四ツ出し示し是よりも又孫の年を尋ねればかれも指を出して答るなどクウエンダに上りし初にくらふれば百が一のくるしミも／なかりきシユンチヨーの妻ミユーソフ傍にて葛煉を調し砂糖そへて」（24オ）もてなすおのれまづ一ツつゝ両人の児へくはせその後自分にもくひ味ひ／よきよしをモイノ〳〵と申は皆〻打笑ひけりミユーソフも物語したけ／にていひ出し〳〵しつれど仕形につかへ滞りて打やミぬ誠にをしき事／ともなり○廿八日空晴シユンチヨー、クロスのカイノーに物持せて出来り／我に向ひ是はさバかりの物ならねどかた〳〵へおくりあたふとてカイ／ノーが持たるを取て我か前に並べをきけるを見るに竹をあミたる枕十三／木綿藍嶋の一尺五寸斗の手拭十三切れ藺むしろ十三枚徑り一尺三寸／許の大サにて外のミを弁柄漆もて塗たる盥五ツ柿色の紙帖り／たる團扇十三本烟草切たるが十三玉なりけりこはなくて叶ハぬ／ものを心つき贈られたるハ厚き志ざしの至りかたじけなくて額」（24ウ）つき礼（キヤヒ）をのべるに又大なる臺に枝つきたる龍眼肉（ライテウガ）を多くつミ長き／日くらしにとて送りぬこれをもさるべき程にいらへし扨十二人のものを／呼て主より給ハりつるとてとらせけれバ皆〻シユンチヨーに對ひ額て／持入りぬさてシユンチヨーいづ方へかひとり出行けりこゝに着て／はや三日に成りぬれバ上官の

所へ呼出さる事もと思へどその沙汰／なかりし○廿九日雨ふる今日ハ雨ふりけれバ熱堪へやすかりし昼頃／丈高く色白き夷一人帽子かつき黒羅紗の衣に白き莫大小（メリヤス）の／股引はき皮の深沓ふミ傘さしたるが傘をすほめ入来り皆〻の／居所をさし覗き終に我所に来り自分を指ざしヱンゲルス、カビタン、ゲツ／スルといひ又我をさしてマニーラン、マカヲといひその外さま〳〵まねひ語り」（25オ）しつ、衣のかくしより銀錢弐ツ取出しておくり是にて不自由なる品を／調へよと示して帰りける是ハヱンゲルスより爰地に渡り居るカビタン／なるがこたび我等がマニーランよりこゝに渡り来つるを聞て定て便り／少くあらんとて問ひおとづれしなり此人来りし折と帰る時に帽子を／そと取て式礼（キヤヒ）するを見れバ髪を打かぶりちゞれて後ろに下り目は／淺黄色なりき此銀二ツをバマロシして錢にかへたるに道光通宝の錢／一貫八百二十文ありしを分ちて十二人のものへとらせぬ○晦日雨ふる／長助マニーランにありし時肥前瘡をやミて快くありしが此程船の／上にて雨にぬれたる故にやまたふき出て腫れいたミなやミけれバ／シユンチヨーにはかりくすじをたのまバやとこひけるに晏能して案内」（25ウ）なさしめ我と長助打つれて行けバ四五軒隔てたる処に案内す晏能／容體をかたり薬を乞けるに黒き陶器に入て油薬をさづけたるを／うけ取て帰りけり此の医は頭に髪を被り衣も袖少しひろく裾長きを／着て此地の人とも思ハれず晏能に尋れバコーライてふ國の人にてこゝに／久しく住めりといへり此薬のゆゑにや日を經てなやミ大におこたりぬ／（按にコーライてふ國詳ならず高／麗にてハあるべから）す後考をまつ○五月朔日空晴巳の刻斗にシユンチヨー／来りていひけるハ今日は熱さしのぎがたくてそあれ（ママ）各を伴ひ川の／あなたへ越して熱さをしのがはやとす、められ七八人つれて前なる／川に舟（舟ハ我国のにたり）／てふふねに（ひとし）よせたるに打のりビセンに棹さゝせ少し上〻こぎ行／き向ふの岸に舟つけたり此川はさきに入り来りし川にて源遠く流れ」（26オ）来り幅ハ四町斗廣き所は五町もあらん此川を堺ひにて北をチイナ／（支那の事也）とし南ハマカヲにて今さして行く所ハチイナの中島のごとき処なり／扨舟より上り人里はなれて三町斗行バ小高き岡ありそのわたり巖／あやしくそびえかさなり十間あまり高き岩の間より細き瀧漲り／落ち下は平なる岩のくぼミにて底淺く水清げに廻（メク）り流るゝ岩間／にハ木生茂り名もしらぬ草花時待かほに咲たるハ絵にかゝまほし／き氣色なり皆〻衣ぬき捨裸になりて水あびそびらをうたせ／かしらにそゝぎかけする程に熱さも打忘れ骨迫冷えとほり心地／すか〳〵しく成ぬ石のかなたに九折に作りたる坂道を拾四五間のぼれ／ば平なる所ありこゝにも水たゝえあり源ハいく筋も岩の間（ハサマ）をくもでに」（26ウ）流れ廻（メク）りて爰に流れ入りそれよりあふれ落てかの瀧つ瀬とハなれる／也此水たゝえたるはたに年若き女五六人物あらひ居たるが木〻の枝／に竹やりわたしてかけほすシユンチヨーも汗にそミし物持せたるを／マロンしてあらひそゝがしめ同しさまにかけほす海は目の下にあり／てつなける舟おし行舟或ハ市町の立續きたる沖の小島のまばら／につらなりたる指もて数へつべし立寄るべき木蔭をしめて丈なる／むしろ布（シキ）はへそがうへに圓居すれば松が根のはひあがりたるにより／岩のさし出たるに腰打かくるもありて携へしわりこさゝえとり出して／互にくミかわすかの女とも高き低き岩角をおとりこえつゝ戯れ／ありしがはてハ一ツになり各もたらしたるわりこやうの物をとりまじへ」（27オ）思ひ〳〵に調したる肴をすゝめあひ打興し時移る迫遊びゐたるに／ゆふづく日に驚きそこらとり納め山を下りおのれ〳〵が舟にのり／帰りされり

いと興ありし事なり○二日空晴るパーリと見え中／そりして黒き紋地の袖廣く丈長き衣着たる人従者三人召具して／入り来り白木の八寸四方なる四ツ組の筥に饅頭入りたるを給りけり／パーリとしりければ飛下り額き居ければ少し斗物いひてやがて帰り去／れりこれらの人はマニーランよりこゝに来れる重き人なれバかの人／の許に呼よして給ハるべきをかくひそかに訪ひ尋ねられしハいぶかし／くぞ思ひける○三日空晴る巳の終に夷（エミシ）一人来り横文字しるし／たる小紙三枚（ミヒラ）出し示しけれどもいかで分るべき手ふりわからぬよし」（27ウ）示せバ彼人物認メて出すへきさましけるから我等十三人恙なう日本國／長崎湊迠送帰し給ハりたう願ひ申旨（ムネ）しるして出しけるを彼取て見たる／がその儘こゝにさし置て出行きしバしありて支那人（チーナ）を一人伴ひ来り／これを見せけれどよめぬ氣しきなりやゝミてありしが両人さしゆき大に／笑ひつゝ書付をもて帰りけり支那人ハ我國ぶりの文字をばかき得れど／我記るしたるハよミえさりき○四日空晴ビセンテー、スコツト出来り／て物語りしけれど分らぬが多くて事済ミ終に烟草を十三玉恵まる／此親子のものハ商人（アキヒト）にもあらす家もゆたかにいとなミするさま也折／ふし親子かはる〳〵いつちへか出行き遅く帰り来れるハ直（トノキ）するにや／さればふたり共に官（ツカサ）ある人とハしられたり○五日空晴る朝シユン」（28オ）チヨーいふは今日は十三人つれ出て我案内してそこら物見せさせんと／いひけるがしバしありて昼げの料をカイノウビセンのふたりおハせて／いざといひつれバ皆〻打つれて出たり市町のさまいづれも同しく／所せきなく建つらね下家に石布たるもあり商人ハ臺をかまへさま〳〵／の物をつらねおく支那人も商人となりて住めるが多し或ハ屋敷かまへに／長屋立つゞけいかめしき門もうけたるもありすべてマニーランの有さま／にかハる事なしかく十三人打つれて出たれば却而物見せらるぞを／かしき二里にはたらぬ程北東をさして行ハ人家もまはらなりある／小山の林下に石高くつミ堀をつきたるに丸く門を作りたり入て見れば／からかねの観世音の像を置き傍に石を建て六字の名号をゑる堂守りと」（28ウ）覚しき僧壱人あり我國の僧とかはる事なし只沓をはく斗ぞこと／なりけるこれは支那人の建たるならめ呂宋人ハかのキリスにてこれらの／御佛を唾ハきすべくそ思ハるこゝより北にむき十二三町行バ上るとハ／なしにおのれとのぼりゆきて今きし寺のあたりくだしミる此所／は人家又しげく植木作りつ盆（ハチ）に植たるが多く見ゆ又くつわ（ママ）なるよし／大きなる家並び立あそび女群出て我らが行を〻かしとや見けん笑ひ／の〻しる是より上ハ人家絶え道もなだらかならず赤土山にて樹木も／希なりいたゞきに至れバ高き千尋（ママ）に越えぬべしマカヲの家しげき／中に抽（ヌキ）いで〻石垣かさにつミ重ね塀（ヘイ）やぐらを数多つくりなしはた廣き／家の棟のさまあやしく建つらねたるはこの國をしり給へる大人（ウシ）の殿づくり」（29オ）なるべし遠山は波のすがたにおこりつゞき海づらハ青き毛むしろ／布はへたるさまにて小島のまバらにミゆるは一ト掬（ムスヒ）の石を散らすかと／覚ゆる湊の中はいふもさら也千里のかぎりしられぬも僅に二ツの／瞳（ヒトミ）に入りてしバしわれを打忘れ詠めおほれて居たる所をシユンチヨー／に引立られて山をあなたへ下りけり此わたりをばハスヤとぞいふなる冬ハ／里人こゝに打群れつゝ遊べと今は熱さに木蔭たになければ往来（ユキ）／する人さへなしといへりかくて山を下る事五町あまりにしてさゝやか／なる家に入りぬこはよしある人の下やかたなんどいふべく前栽／ひろく山にそひて作りなし岩角そひえ立木立ゆゑありげに植ゑ／つゝけ外には丈低（タケ）きつい垣つき廻（メク）らし処〻に棚を

かきえならぬ」（29ウ）躰に見もしらぬ木草植しめて並べのせ家のさまミやびを盡し遠目／かね二ツ設けて見る人の便とすなり主は五十斗の人にて名はボメントといふよしシユンチヨーとハしたしうする人と見えし召しつかふものハ支那人／にて庭を作り枝つミくさ〳〵の業したりわらハして茶を煮このミ／出してもてなしけるはや時も移りぬとて負せたりし料を取出し／ひるげくらふ主よりも魚鳥の油もて烹たるを器にもりて出さるあり／つる人〻くひはて、こ、を立出て十町斗も下りければ大河の邊に出／たりあやしき岩の水にさし出たる上に釣たるもあり木立の本に／立よりかるた打もあり少しあがりたる所にハよき家ども立並ひ川／の向こなたにもともに人家おびた、しく立つらね爰の木立かしこの」（30オ）岩かけに熱ささけんとてすゞミたる人多し南に行ばハスヤの林下／少しさし出て人家しげくそを打廻り行ばよき家おびた、しう見ゆ／こ、はポルトカシとてマカヲと打並びたる所なりマカヲにはうかれ／めを、かれずこ、にはゆるしあればわきて賑ひぬるよし此わたり／より人家つゞきてマカヲに戻りし今日ハとくくれたり○六日晴る／事なくて家にあり○七日晴シユンチヨー植木見せんとて二階へ／呼び裏の窓の外にひろくやり出しを作りそれに棚を設けて鉢に植／たる草木をおびた、しう並べたりつく〳〵見れと皆しらぬもの多／かる中に蘭斗ハそれとしらる是も数多ありけり世にまれなる／草木もありけめしらぬ程口をしきはなし○八日空晴今日ハ甘酒」（30ウ）を多くもてなさる味ひことにうまし我國の甘酒にことなる事なし／醸しやうを尋るにもち米にてつくりたるよし名をも聞しか忘れぬ○九日空晴十二人のもの気をくし昼?いたつらにいねてあれば／病をひきおこさんもはかりがたく双六のたハふれなんど日永のすさびに／しのびやかにものせんはくるしからしとゆるしけれバ彼等悦ひ／重五郎外に出行しが程なく帰り来りかしこの家にて骰子（サイ）を賣るを／買ひ来れり大きなるくり鉢に是をおびた、しう入れ並てありこれ／見給へとて見せけるに一と四をは赤くしその餘の目ハ黒（クロ）に何のため／なるをしらず是より彼等同士しのび〳〵にたハふれしが後ニハマロン、／ビセンなども加ハりけるとか聞し（按此の骰子は支那人の作りたるをこゝらあたりに傳へ賣るなるべし一と四を赤く）（31オ）色つけたるハかの貴妃の呼たる目にて五位をさづけ朱一朱四といへる事の名残りなりけめ／○十日空晴川舟に金薯（サツマイモ）／を多くつミ来りて陸に上るいつ地よりのせ来るにやをり〳〵しかする／なりこ、ハ穀物も多く海のもの山のものもかけたる事なくしかも／そのあたひもいやしけれどわきてこれハいやしくて下ざまの人心やす／く貯へられてかての料（マウケ）とすなりけり皮赤きも黄バミたるも／あり市にひさくを我等もをり〳〵くらひぬ名をバカモーセとか聞／き○十一日空晴徳藏いふはマニーランにて貰ひ請たる銀を一ツツ、／十二人に分ち給ハりべうもやとこひしかどこれは我秘め置て私する／にあらずいさ、か思ふふしあれバとてゆるさず○十二日空くもる／事なし○十三日空晴心（コヽロ）に祝ふ事あればマニーランの銀壱ツ」（31ウ）取出しマロシ（ママ）して錢に換へつ酒さかな菓子（コノミ）多く買ひ十二人のもの／またこ、のめしつかひマロンを初め六人の者へす、めければ皆〻心よげに／打興しぬ○十四日空晴こ、の孫ヒールテス、ハンテウル二人して烟草／十三玉持来り恵（メク）まれしかバ餘のものへわかちとらせぬカゞヤンにあり／し時ハ烟草つきて生葉をきさミほしてのミたりしにこ、はシユン／チヨーの信実（マメ）〳〵しくものせられしかばさる事もなくひとり我の／ミか皆心ゆたかにくらしつこの比いとあつけれバ朝ゆふには前なる／川に入ひたり水あびけり彼女乗りしあそびの舟多くかゝり居我等が／中ニも心なくひそ

かに此舟にゆきやどるものあるはうれたきわざなり／○十五日空晴マニーランにてしたしく交りしギストン其外四人打」（32オ）つれ丈ケ二尺餘りの酒瓶一ツ携へつゝとひ来りをとつ日こゝに来りしにいまだ此地にありと聞て来りをとづるゝよしなり誠にうれしく／覚えけれバとくそのかめを開き魚鳥なんとの調したるを市よりかひてすゝめつればかれもゑひを盡して帰り去れり○十六日十七日／事なし○十八日空晴此に着しよりシユンチヨーが厚きもてなしに／あひて皆〻心やすく日〻を送りつその志にむくふとにハあらねど／行李の中なる藍の小紋染の木綿五反白木綿三反を取出し是を／シユンチヨーに贈りつれば悦ひ色にミへてモイノ〳〵と申てやまず／妻ミユーソフ嫁カーレンも傍より悦ひ聞えて手に取り見つゝ互に／何やらん申ゐたり○十九日空晴昼頃二階へ来れと呼ふ行てミれば」（32ウ）シユンチヨー青紙を帖りし傘一ツ烟草一玉贈りて猶たらハぬ／ものあらバへたてなくいふべきといふかく情ふかく万つ信実に心を／くバり給ハり何たらハぬ事のあるべきしかハあれどことかくふしもあら／バその時にこそ申さめとて分れたり○廿日空晴双六の上にて龜次郎／八五郎物あらそひし出したるを重五郎傍より扱ひしづめたれば我は／しらぬさまにもてなしぬ○廿一日空くもる今日も何事をかさわがしく／いひのゝしる彼等が心なく我まゝなるふるまひ誠にやすからぬ事ども／多かりき○廿二日晴きのふゆふくれに留吉龜次郎こゝの晏能に／伴れ酒うる家に行したゝかにゑひそれよりあそびの舟にやどり／テレスシヤベカ三百文をいふ／もて楽ミを極めしと語りあふ聞も中〳〵忌ハし」（33オ）くてさとし恥しめんとする所にさきに来りしエンゲルセのカビタン、／ゲツスル入来りほしきものを調よとて銀錢弐ツを恵まるしバしか程／物語して帰り去りかの示す所さたかに聞しるべうもなし後にてかうがへ／見るにこゝ迫来る事なれバ我舟にのせてエンケルスにつれ行べし／本國はこゝよりはるかに越へて繁花なる土地にて世のたつきなし易／かり身の品をもあげ用ひらるべきそ日本へ帰りてもさして仕出たる／事もあるまじければよく思ひ定よとの事なり誠に我心もしらて／物すゝむるがをかしとて一人り笑ひけり○廿三日雨ふる今日雨／ふりひとりゐて此所のやうをつく〳〵かうがへ見るにこゝは支那と境を／まじへたれど呂宋のしれる國にてその大サはいか斗ありけんしらず」（33ウ）呂宋より重き官人をつかはし沙汰しをれその餘の官〳〵も呂宋より／来るもありこゝに土着なるもありて一ならず商人ハ支那人も多くこゝに／移り住ミ業ひをいとなミ奴僕のたぐひハ支那人或ハゴヲ、カラツパの／クロスとも多しされど支那人に土夷のつかはるゝハなかりき扨支那の／公館を設けそれにはさるへき官人ありてこゝにある支那人を沙汰／するなり屋敷のごとく見えしはこゝのくらある所にてその餘ハこゝに／渡りくる國〻の郭なるべしその入くる國〻ハいくばくなるやしらず／呂宋人ハいかめしく支那人ハなたらかにて呂宋人にをとしめらるゝさま／に覚ゆるこは主客のけちめあるが故にやはた人の強弱によれるが／エンケルセの人はわきて氣高くたくましう眼ざしするどにミゆ」（34オ）○廿四日空晴万助留吉の二人かよべ酒にゑひかのあぞびの舟に／夜を明し今朝戻り来て我しか〳〵しければ女はかくこそしつれなんど／きくもくるしきありさまをほこりかにかたる今ハこらへがたくて十二人を／呼ていふは我等十三人カゞヤンに流れつきてよりからき命いきつくつぎ〳〵に／送られて爰迫ハ来つれかくてハ我國へ帰り得べきなれど猶行さき／はるかなればそれもはがりかたくこぞ我も各も心に怠らず神にいのり

／佛に誓ひて一すぢに帰路をねかふべくなんそのうへこゝの主の信実に／いたハり恵まれて何一ツたらハぬ事なく物せらるればわきてこゝろ／すべきをおのが身を打忘れ日毎に酒をのミあそび女になれ近づき／われハ顔に經る処なういひのゝしるハさりとてハ心得ざるうハのそら」（34ウ）なるふるまひになんあるシユンテー（ママ）のかへり聞かんも傍いたう神仏の／ミはち給ふをもかしこミおそれぬとぞ覚ゆる此後ハ互にいさめあひ／かまへてかゝる心なきわざすなとにが（ママ）〳〵くいへバ何といふべき辞も／なくて入りけり中〻ハかくさまならぬハつふやきゐたるもあり○／廿五日空晴さる廿六日こゝに上りしより今日迨三十日を經たるに／官人（ツカサヒト）より召出さるゝふしもなしかくてあらんにハいつこの地を立出／べしとも覚えず越し方行末を案しつゝくるに涙はふり落るを／人にしらぜじ（ママ）とつゝミぬぐふ○廿六日空はれ昼過る頃ビゼンテー（ママ）／夫婦に伴はれて出けるがかの夫婦は家を出るといなや互に／左と右の手打違へて肩に打かけ人のミるを恥かしとも思はでいそき」（35オ）ありき行く我は後におくれながら従ひ行しが七八町あまりにして／横なる大路に入りて大なる家の中に入ぬ後れながら行きミれば／いづちに在とも見へず人も多く居てあやしめらるべう覚えつれバ／え入らで戻りぬこの人ハ日暮て戻り来りいかで彼所へハ入らざりしぞ／待くらしつるをといへり○廿七日空晴るシユンチヨー西瓜の大なるを二ツ／恵まる種子赤くて味ひよし名をマテーカとか聞し此種を捨んとせしを／ビセンとゞめて乾し置炒りて皮を去り中なる仁（サネ）をくらふうまきにハあら／ねど又捨やるべうもなく南瓜の種子もかくしてくらひけりゆふ方ビセン／してさきのケヅスル（ママ）が贈りし銀を錢にかへ十二人に分ちとらすビセン／いふハマロシ（ママ）してシヤベカをかへしむべからず彼は心直ならず物をかすめ」（35ウ）とる性（サカ）ありとひそかにしらせぬ○廿八日空晴今日ハビセンテーの妻／カーレンより見も馴さる菓子を贈らる一ツハフンガンとて四ツにすぢだち色／赤く大サハ桃のことくて皮をされば白く味ハことに甘くてうまし今一種／ハフンガンに似て小く薄く黄ばミて是は五ツに筋だち味ひ甘し／いづれも葉をは見さりき珍らしう覚えければ種子をつゝミをさめ人〻／の打くひたる種子をも一ツにたくハへ置きぬ（後に圖を出す）／細かに心をつくし／なばかゝるたぐひのもの多かるべきを其時ハさる方に心づきなくて／ありしを後に家に帰り此日記を見るごとにくやしく思ふ○廿九日／空晴シユンチヨーとハスヤに至り日くれて帰るさきの日見たるに／同し○六月朔日空晴今日は此家のやう只ならす人の出入多く」（36オ）事のありげにミゆ家の裏には豕を殺しカツセンを屠り（是ハ並〻の／もてなしに／つかハぬよしなり此家に僅二疋／飼たるをそ一疋殺したりき）魚鳥のたぐひ多く持来りさま〳〵に調し設／けくりやのあたり所せきなし昼過る頃まらうどと覚しきが十二三人斗／帽子冠り衣たゝしうし従者ぐしたるが思ひ〳〵に入り来り又うつ／くしき女三人迨輿に乗りて来りたり十七八より二十二三斗の女にて／身にハ文（アヤ）の五色なす衣を着白綾の袴やうのものをはき髪は頂に／おしつかねたるに玉の簪七本長き短きをさしかざり水晶或珊瑚／の珠（マ）数（マ）をかけたり輿ハさまで大キくはあらぬが黒漆の四方ひさし／の頂に銀の葱花をすゑ柱ハ黒或ハ朱ニぬりたるが三方に黒き簾を／下（シ）た長（ナガ）にたれうしろハ黒榛の板張にし中に腰かくべきために檀を」（36ウ）設け轅ハ前後六尺斗あまりたるを夷二人して舁きつゝ此家にかき／入れ梯の下にて輿より下り皆二階へ上りぬこしぞひの女も共に従ひて／上り行くその輿は土間のかたハらにをきて従者ハ帰りそれよりやゝして／もてなし初りかくて程も經ければはや闌（タケナハ）なりつと

覚て笛を吹ならし／琵琶をかなつる音につれてうるはしき聲高く低くあやしく唄ひ／すます誠に賑ハしく聞ゆ日くれけれ(ママ)て後ミユーソフ出来りて我に／こよといふかゝるはれ〳〵しき響宴(モテナシ)(ママ)のむしろに不束なる身の憚あれば／いなミけれどあながちに手をとりひき行んとする故にすべき／やうなく羽織引かけて参りぬこしかけにかゝりゐれば日本人珍らしさに／各傍に寄り来て酒をすゝめ肴をあたへて物語りしけれどもゑひし」（37オ）うへは猶分らざりしをシユンチヨー傍より酒を好まぬよしいひけれバ／しひてすゝめず菓子をよせて或ハ甘き酒をすゝめらる彼三人の女も／傍にありしがカーレン何とかいひけれバ三人立あがり袖をひるかへし／足ニ拍子をふミそろへ舞つれたるハ心しらねど其すがたかたちえならず／ぞありける我も興をそへんとて若かりし時聞覚しお久徳兵衛の浄瑠／利をかたりけれバ皆〻手をたゝき大に笑はれるがその中なる一人パタカ／五ツを取出し給りけるをシユンチヨーにミせて辱きよしをのべうけ収め／ぬかくて夜一夜打興し空あかくなりて各帰り去れり我も下り／たるまゝに伏し倒れぬ○二日空はるゝ日蔭たけて起あかり／シユンチヨーその餘の人〻に見えてよべのかたしけなかりしを申置き扨」（37ウ）かの人〻より給ハりし銀をマロシ(ママ)して錢にかへけるに数たらざりしを／是ハいかにと問へばナウテン〳〵とて奥に逃け入りぬビセンかいひしハ／誠なりけりと思ひ合せぬこの錢を分ちて十二人にとらせけり○三日空／晴る朝割り藤もて編たる笠の上に赤き房つけたるを被し支那人／二人来りシユンチヨーにあひて物いひしがシユンチヨーいふハ支那の公館に／出よといひこしたりとて出んとてシユンチヨーと我と外にさしそへ／として長十郎をぐし彼支那人二人と打つれ行く此道ハさきにハスヤに／まかりし時行たる道よりハるかにあがりて北なる道なり左右人家／並らびつらなり商人の家〳〵さま〳〵の物をつらねたり一里あまり／行きたるに二十四五間四方斗石檀(ママ)高く築上ヶたる上に寺の」（38オ）如くに作りたる大家あり入口は五ツ開き前に六尺斗の板に支那人／の形を画て立たり木立も少〻あり蔭に竹にてあらく編たる笠着／たる支那のかろき人〻とおぼしきが七八十人斗群れ居るそのかたハらに／黒き屋根にその餘ハ朱塗に金箔だミたる轎三方に簾たれ中に／こしかけ作りたるか一ツ長さ六尺余りなる太き竹をわりたがるが外ハ／青く内ハ朱にぬりたるを弐ツ丈ヶ四尺横壱尺あまり上を駒形に作り／たる朱ぬりの牌(フダ)二ツそれに香山縣左堂と金にて書し又箕の／形したるを朱くぬりたる内に白く香山縣左堂と書たるが二ツ五月／の菖蒲太刀のごとく真鍮づくりの太刀二ツ又江戸にて御大名の火消／の調度に用ふる大團扇の柄を長くし朱漆もてぬりたる表に」（38ウ）金にて日天と書(シル)し裏には香山縣左堂と書たる翳(カザシ)壱ツ喇叭(チャルメラ)太鼓／鉦(ドラ)その外一間斗の細き鉄鑼(クサリ)四條(スヂ)ありこれらハ左堂なる官人の供奉／につらね用ふる調度なるべく彼群ゐる人ハその人の召具せしもの／なるべし扨支那の人に引かれて中の大なる門を入れば中ハ土間に奥深く／上の方に左堂こしかけにかゝり前に高き机をすゑ左右にハ笠被り／たる割藤をもて編たる笠に種〻の色なる房つけたる也凡士以上より足輕／なん／色にて品分かるあといふ迫この笠被るさまなりさるはその衣服と笠のかざり房の／り我等か／打見ていつれも同しさまなりき官人十人ツゝ並び立てり下にアンベラの席／敷たる上に我等二人跪き拝しければ近う参るへく沙汰あり／左堂の傍近くすゝみよる何かいはれしにつきて我〳〵十三人去年九月日本／を出てこの正月カゞヤンに流れつき呂宋に送られ又こゝに来るあはれ」（39オ）日本長崎迫送りつかハし帰さしめ給ふべう願ひ奉り申けれどさとられず／いくたびも同しさまにしけれバさとり得られしにやうな

づき示さるこれに／事すミたると覚え伴ひし支那人につれられまかんてける此公館は／ハスヤの後に當り爰より北に十五六町行ば大河流れたり廣さ五六町も／あらんさきにいふことくこの川中をチーナマカヲの境たるよし川の両方に／も人家しげく立つゞく左堂初その餘の官人ハ向なるチーナの地に住て／日毎にこゝの公館に出るよし也扨東なるスハヤ（ママ）の山の林下をめくり行ハ彼／濱邊よりポルトガ（マ）ルヘシに出るなれど路の程はるかに遠しとて出来し／道をたどり戻（マ）れり○四日空晴るこゝに来り三十七日にしてきのふ支那／の公館に呼れたれどくわしうさとられしとも覚えずさらバ此後いく」（39ウ）たびも呼はるべきなれば速かに事済べきとも覚えずと案し居たるに／ゆふくれ支那人五人つれて来り書（シル）したる物を出すを打見れど真名（マナ）字にて／しるしたれば分らすされど見しりたる文字どもありてつく〳〵かうがへ／つれば日本よりつミ入し荷物并のり組の人を書し出せとの事なるを／しりて心得たるよしいひければ帰り去れり○五日空くもる朝支那／人二人来りとく書きしるし出せともよほしたり心得ぬとて其人を／戻して扨したゝむるやうハ去文政十一年子九月廿四日日本国武州品川出帆／船の積荷絹糸行李二十絹木綿反物行李三十酒六十駄米三百俵／麦三百俵大豆五十小間物行李十船頭儀兵衛楫取重五郎表師／万藏水主龜次郎長助佐助助次郎萬助竹三郎留吉長十郎八五郎」（40オ）徳藏右之通り六月五日日本船頭儀兵衛と記し判をすゑてシユンチヨー／と打つれはる〳〵きのふの公館に出て左堂に直ニ上りて戻りぬ○／六日空晴朝支那人来り今日ハ十三人のもの共ひとしくまかり出べきよし／シユンチヨーに申す其旨心得たれど長助心地あしけれバ残し置十二人／シユンチヨーに具せられ外に夷二人支那人一人そひて行くけふ我等／多勢出たれバ路次の見物多しやう〳〵さきの公館に至り見るに今日ハ／官○（人）三人出られつと見えて轎三ツすゑその外牌翳（香山縣左堂牌翳の外香山縣正堂と書せり）／／（勘州文民と書せり）刀竹金皷喇叭の類も多く見え供奉の人と覚えしも二百人／斗りそ群居たり傍なる入口より入れバ隅のあたりに屏風にて二十畳／敷斗りに引廻らしアンペラのむしろ敷たる所につれ入りたれは爰に」（40ウ）つひ居たるに支那人茶をもて来りあたふしバし待程に笠被りし官人／来りてシユンチヨーに沙汰すれバシユンチヨー心得て先ツ我のミ一人出べ／しとてシユンチヨー外に夷二人支那人二人に引れさきのごとくアンペラ／の席の上に跪き拝しける上座（カミクラ）のかしらと末にあるハ今日初て／ミる人にてこれぞ正堂と勘州文民の法官なり中なるハさきに／見えし佐堂なり前に四尺四方の案をすゑ左右にハ笠被りし人／十人ツ、立烈（ママ）らねたり扨すゝむべしとありけれバ案のこなたへ立つその時／正堂漂流のやうを尋ねらるゝにやものいひ出されけれども分らす我も／漂流の初め終りより恙なく日本長崎迫おくらせ給へと手にてその／形をうつしくりかへし〳〵しけれどさとられしとも覚えずそのうへ我物」（41オ）まねびするををかしうや思ハれけん三人笑ひ出してやまずかくてハさとし／うべきにあらずと思ひつれは懐よりたたふ紙取出し腰なる矢立を抜／てかの案の上にて日本の船を画き波風をかきそへ檣を切り船のくづれ／しさまをなし又水盡て疲れ弱たる姿をミせ九十日を經てカゞヤンに／着たるやうを示しければ是にて一トわたりハさとり得られつと見え／うなつかれぬ正堂又カ、ヤンにてハ首を刎られしハなきかとそのさま／して尋ねられければ日本を乗り出し時十三人カゞヤンにありても十三人／なりかしこには喰物多くあたへられ心をつけいたはりくれたるよしを／いへばこれも聞えられしと見ゆしバし暇（イトマ）給りて元の所に退きぬ今日／

尋ねられしふし〳〵まづおぼろげに分りて心をやすめけるや、ありて」（41ウ）笠被りたる官人又来り十二人ひとしく出すべきよし沙汰しければシユンチヨー／その外の人に従ひアンペラの席に跪きをる笠被りし人二人して黒き／箱ニ銀錢を入て持出し土夷四人立並び我等一人毎に四ツを給ハりぬ／るを皆〻額づき捧て退きける今日ハ此らにて事済たるよし／なり銀をバシユンチヨーに渡してやがてこゝを退出シユンチヨーか許に／帰りける〇七日空晴きのふ給ハりし銀をシユンチヨーより渡さる／シユンチヨー一ツ〳〵を見るに此内に贋銀四ツありといふ我申は偽り／たるハいづ地にもまゝあるならひなり四ツにてハ真の銀ニツニもかへつべ／きやと尋るにいかでニツにかへ得べきそが半バにだにあたらぬ／ものをといふしからバそれを支那の公館に納めて真の物とかへて得せ」（42オ）しめ給へといへばしバしかうがへ居ていかにもかなふまじとそいふなる／さて四十八の銀を錢にかへ十三人にわかちその後シユンチヨーに向ひたとへバ／人ありて我等が如くしらぬ國に漂ひてその國の官人より多くの錢を／給ハりつるを市にもて行銀にかへんとするにその市人心あしきもの／にて彼は他の國人なれバ心えたる事なからましとて偽り作れる銀を／出し錢にかへ得さすれバ彼は本よりしらぬなれば何心なくおさめ帰るを／傍人それを見てそは真の銀にあらず欺をうけたりとて笑ふめり／彼人始て欺かれたるをしり再び市人の許に携へ行きさきにかへつる／銀ハ偽りつくれるものとあたり近き人〻しらせぬ我は他の國のもの／なれバさるけぢめをえしらでうけたれどこはもの、用にあたらねば」（42ウ）返し入る也真の銀をえさせよといへバ市人は初めより人を欺くために／はかりし事なればやハか替へ得さすべき却而うらかへにことをかま／へてさきに替たるハ真の銀なるをそが儘持ち去り今此あしき銀に取換／へ来りてしか〳〵といふハ人を罔のミか悪名を負する事やりからねとく去ら／ずハ目に物見せんとさん〳〵にの、しりあらそへば彼人せんすべなく帰り／てその國を沙汰する官人につきてかゝる欺きをうくるさへあるに却而／恥かしめの、しられやすからぬ事なり傍人何某こそ證なれ召出て問／ハせ給うべうもやと訴へなば官人市人を問ひ究めまた證人にも尋ね／訪ふて後いかに沙汰せらるべくなん扨彼官人がかの市人に向ひて世の／業は邪なく正しうするよしはかねて掟をきつるを東西をもしらぬ」（43オ）余所人を誑かしたるさへあるに却而逆しまにことを構へのゝしり／恥なは重きにあたれりいそき真の銀をかへ得せしめ過ちをつぐのひ／つべし扨その欺きたる贋銀ハ汝か手してつくりたるか又誰か許より／得つるかそのやうを申せときびしくいはるべきにやはた市人の陳／じ申さんをその儘に聞かるへきや抑他の國人はいかに欺きたぶら／かすとも咎めなくて却而よくなせしとほめらるべきや我日本は左に／あらずかゝる類ひハいといたうきびしう掟てゝ偽れる銀の出処を／さぐりにさぐりあなくりて造り出たるを死にをきそを扱ひたるは遠き／島に移し或は土地を追ひ拂ひなんとして少しもゆるかせにする／ふしにあらずましてつかさ〳〵居並ひ居て物たうでつるにかゝるうたが」（43ウ）ハしきを出すハふつになき事なりきといへばシユンチヨー聞て理なりと／てかの四ツの贋銀を以て支那の公館へ出行ぬ昼過る頃帰り来り／いかに申せども支那人のかたおもむきに心えておのれ等が贋せ銀を／出せしをバさしをきて儀兵衛ハ他の國人なれバしらぬハ理りなれきのふ／銀給りし時シユンチヨー傍にそひねていかでかくとハ言さりしぞ／何事をもいはでその儘納め帰り一夜

過てしか〳〵といふは心えずとて／我をおとしめうけ引かずとかたりければさまでのたまひて事行ずハ／いかにともすべなし打置き給へといひけれどシユンチヨーかたハらいたくや／ありけんかの四ツの銀を出し又銭壱貫文取そへこはわかいたらぬをつぐ／のふなりと出しけれども多くのわづらひをかけたるさへあるにいかで」（44オ）これを請収むべきとかたくいなめとシユンチヨーしかせされバ我こゝろ／ゆかずとあなかちにすゝめてやまされば／うけ納めぬ扨四の贋せ銀は／我持てやうなしとてシユンテー（ママ）につかハしつれバやがて鑓もて打砕き／捨たりこれらの銀ハわたり一寸六分斗に丸くて表に人の面をおし／裏に横文字をおしたる物也き夜戌の刻斗に前なる川邊にてしきり／に物さハがしければ出てミるにつなげる舟の中に男女の聲立て／ひしめくいそぎかへり入りて我等が人〻を見るに徳藏一人なかり／けり扨ハ奴（シヤツ）なれ重五郎をつかハしそのやうを訪ハせけるに帰り来て／いふはゆふ暮徳藏川に水あびつゝ見るに遊ひ舟の中ミめよき女あり／けるをとゞめをき今宵しのびやかに行しが元より案内（アナヒ）もせでゆくり」（44ウ）なくしのび入くるかうぬす（ママ）人と心得てかくひしめくなりといふ我驚き／いそきそのよしをシユンチヨーに告げよきに斗らひ給ハれとたのミし／かば燈てらして出行きしバし過きて徳藏をつれ帰り入る徳藏をハ／したゝかに恥しめをきぬ○八日空晴行李を開らき銅の板一尺四方／厚三四分斗／八枚を取出しよべのむくひにとて是をシユンチヨーに贈りつれバ／大に悦ひけりシユンチヨーいふハ今日ハ大筒（カニヲン）を見（ミ）に行ばやとすゝむ／ればしかるべしとて昼過る頃より長十郎と三人つれて出たり西をさして／一里あまり行ハ城門あり石垣高くつミ上けたる上に塀をつくり／わたし門ハ石の柱を立て上に矢くらをかまへ窓を間（サマ）のごとくにつら／ね開き皆白くぬり飾りこれにも鉄炮持たる人多く守りゐたり」（45オ）こゝを入てミれば大廈高堂左右に建つらね遠く向ふの方に同し／さまの門見ゆ左に廻りて五六町行ハ石壇廣くつくりたるを一町あまり／上るにその所三町四方斗なる平地にてめくりに低き塀をつき廻ハし／長サ九尺斗十貫目程の大筒を車つきたる臺にのせたるが十二挺ツゝ／七所に備へたり中央に十間に八間の家ニツ並へ作り二階に窓を／多く開き皆硝子を入れ下ハ石を平らに布たる所に人多く群れ／ゐたる中に伴ひ入りたり頭の人とおぼしきか三人腰かけにかゝり／前に高き机へをすゑたりその傍により居たれハ茶菓子などもて／なさるしバしありて此人〻沙汰しければ各あづかりの人〻立わかれ／一挺に五人つきそひてくすりこめ火を移せはおひたゝしき雷の」（45ウ）一時に鳴るがごとき音して打出たりその烟りのはれもやらぬに／次なるを打出す三四十間あまりも後へに車ゐさるを押直し筒拭ひ／薬こむるさまいとすみやかなりかくつぎ〳〵に十二挺打放す事なれば／大地もふるひ矢くら塀もゆりくずすかとあやまたるこゝの十二挺を／放ち終れば又かしこの十二挺をはなつ打廻り〳〵て放ちつゝくるに黒烟／おこり立て物をミず餘りに近聞故にや耳もふたかり心地あしく覚え／て長十郎を見かへれバ彼も恐ろしくやありけん色青ミて見えつれば／そと目くバせし爰を立出帰らんとするをシユンチヨー見しりて留め／けれバつとめてゆふくれまてゐたりシユンテー（ママ）二人か色あしきを見て／けふの物見ハやうなき事なりとて打笑ひ爰を下りて城門を出」（46オ）けるに帽子被り胴乱下けたる夷手ことに小筒の鉄炮をかゝえたるか／二十人ツゝ二た並に立ち先に太鼓二ツならべそを打たゝくまに〳〵足拍子／ふミそろへあゆミ来るさきにカゞヤンにて見しにことならずこゝを過／き行けは又同し鉄炮の一

組太皷の拍子につれて戻り来るはや日／くれければ家〻の棟に三尺斗なる四角の蠟燭を十五六挺つゝも立て／つらね大なる家ハ三四十挺にも餘ぬべし八日の月の光に此火を／そへたれば正午（マヒル）にひとし左右の家ごとに人あつまり酒くミかハし／賑ハしかりしハ祭なんどいふかことし家に帰り打伏したるに夜ふ／くる迫大筒の音したり○九日空晴熱さ堪かたし昼過るころシユン／テヨー（ママ）に催され九人打つれ前なる川より舟に棹さしてさきに遊ひ」（46ウ）し滝の元に至り水あびそこら打廻り日くれに帰る今日も女とも物／そゝきゐたり○十日空晴ヒゼン（ママ）テーの乙子ハンテウル此程より病に／ふしたりと聞て二階へ参りいかにやと尋ければはか〳〵しうもあらて／たうべ物も少（スクナ）しといふ熱（アツサ）にやさハり給ふらめ厚う看病（ミトリ）給へと云て／退かんとするをシユンチヨー引とゞめ物語しゐたれバミユソフ（ママ）砂糖に／漬たる菓子（コノミ）取出し茶を烹らる我尋ね問ひしハ去りし日支那の／公館に出られし三人ハやごとなき（ママ）人と覚えて従者多く具したり／しよといへばシユンチヨー云ハかれらはこゝのつかさかしらなり身の／品もよきと聞しかど何事のあらんニハ物の用に立がたしといふいかて／左はのたまふぞとおしかへせば支那人ハ事に堪ゆる心少く物驚きする」（47オ）が多かりはや五十年斗もさきの事なりしが物あらそひより戦ひ起り／互にいどミあひしがいつもかのかた打負けぬそのよしマニーランに聞え／しかバカニヲン（大筒）多く持て大勢渡り来りチーナにも近き所〳〵よりたす／けの兵来るある日大勢を引具し川を渡りて寄せたりしにこゝの／ものマニーランのものと一ツに成て大に戦ひカニヲンを放ちチーナ人を／多く打殺しけれバ川を越して逃（ニゲ）去るとて水に溺れ死するもの多し／それらの首切てかの川の辺にかけられければチーナ人ふるひおそれ／てその後は戦ふ心もなくつひにかの方打負けたりその後中直り／して今の如くチーナこゝへ入来る也住めどかしらあぐることもえせすその／戦ひのをりしも疵つきたるもの今五六人はこゝに生き残りありと」（47ウ）いふこは珍ら敷物語にこそと思ひて猶くハしう聞まほしけれどをり節／客人（マラウト）入来るにさえられて別れけり○十一日空晴よべハこの家の出入り／多くありしを何事にやあらんとあやしく思ひゐたるに今朝ヒセンに／聞ば暁方ニハンテウル死せしといふとく二階へ参りしか〳〵ありしと聞／つ悔（クロシ）う覚ゆる由を申ければシユンチヨービセンテーの夫婦とも涙に咽ひ／て聲も出すかなしミなけくしたしき人と見えて多く入来りさま〳〵／の事共物せられいとわづらハしけに見ゆればいそき退き去れり申／の刻斗りに近き人〻多く来りけるがやかて柩を舁出しける薄き平ミ／たる棺に伏さしめ生るがことく衣服を粧ひ黒きもじ貼りたる欄（ワク）をおほひ／内の方ハ透きとほり見ゆこれを四人して舁き出し門を出んとする時」（48人）祖母と母或したしき女共送り出て聲を揚て泣悲む柩にハ人多く／そひビセンテーもそひ行ける我も羽織打着て後につき送り行しをビセン／テーしひて止メければ五六町行てそこゟ立帰りぬいかなる所に葬りけん／日くれて人〻帰来りぬ此家に僧なんとの来り経をよミ弔するさまハ／なし七〻のとぶらひもなく見えぬ○十二日空晴巳の刻頃夷一人来り／我にこよといふこは官人の許より呼るゝにこそとていそき打つれ行は十町／あまりにして大に構へし家あり入口ハ櫛形に作り内にハすべて石を／布きつらね十間斗行て奥に石の壇（キダ）あるを上りミれバ廣き処に大なる／絵かゝミ多くかけ並らべ山水或絵なき大かゞミおし立てまはゆき斗りなり／三間斗経て奥は十五間に八間程の廣き中央に丸き机をすゑ向ふに色」（48ウ）白く鼻高く眼の色かハりたる夷帽子被り黒羅紗の衣の

襟赤黒の／横筋あるを着紫色の股引し水晶の珠数(ママ)に珊瑚の十字形をつなぎたるを／首にかけこしかけ居たり机の傍迫す、ミ會釈しけれバ腰かけをす、め／たるに腰かくるこの所も目にあやにかさりなして驚く斗りなり／傍の色よき藍もて細かに唐草染出したるたれきぬをかけ二十一二斗の／女小きコツプ二ツ臺にのせ持出て机の上に置く又支那人四人して皿に／もりたる肴を数〳〵持来り同く机の上につらね案内せし夷紫檀の／箱一ツ重げに持出しこれを開けばキリコのフラスコ十斗ありて皆さま／さまの酒入たるを取出し机の上にをくかの女フラスコを取り主人につぎ／たれバそれをのミ我にもす、めらる肴もまづミづからくひての後に我に」（49オ）あたへらるこは毒試(ドクミ)の心づかひなるべし肴の数十四五種あるをこと〳〵に／皿にとり分ちてす、めらる初めカゞヤンにて箸用ひしをあやしまれ／けるがマニーランよりこ、のわたりハ食にはすべて鉄或銀もて作りし／熊手のことをそへありカ、ヤンにてハサンカン以上の／人ハ此器を用ひられたり酒ハえ飲ぬよしを申／けれバ甘き酒をす、めらる此人ハ日本の事を好まれしやさま〳〵尋ねら／るれど今日初て逢し故三ツの中一ならでハさとられずしバしありて／支那人二人して六枚屏風を持来りひらくを見れば皆江戸の俳優(ワサヲキ)の錦絵／をおしたり團十郎菊之丞半四郎仲藏宗十郎その外古き新きを／交へ張れり又三馬馬琴等か作りし絵入たる敵討の五冊もの百巻斗／出して見せらる此中に春画(タハレ)双紙(サウシ)も六冊あり日本へ帰りし後か、るたぐひ」（49ウ）の草子をたよりにつけて送りくれかしとたのまれる(ママ)此時かの帳(タレキヌ)をか、けて／二十斗の女一人の童をつれ出て主人の傍にこしかけらる色白く顔丸く／瘦て面ニは粉黛を粧ひ髪ハ少し赤かりしを頂の上に結ひつかね珠を／ぬきたるこかねのかんざし六ツ七ツ刺したれうす青の綾地のうすもの／の衣の下に垂白ききぬを着黄なる袴はき珊瑚の珠数(ママ)かけ女童も同しく／うつくしう出立たり此女は主の妻にて女童は女(ムスメ)なりけめ酒一ツ二ツ飲ミた／りしか主の詞をうけて押入やうの前ニ至り箱の引出しを半バ引き出し／その中に琴つくりあるをかなでつ、うたひすまされけるその心はしらね／ども哥のさま琴の音いろをかしうて聞も珍らしかりし猶酒す、め／られしかど思ひの外にゑひければ引と、めらる、をも聞すしひていと」（50オ）まこひして立出けれバさきに案内せし夷おくりて帰り着にける此事を／人に語ればそれハマカヲ一の富有の人にて極て物数寄し諸國の物多く／持たるゴウデレツキなりといへり○十三日空晴るきのふ案内せし夷来りて／いふやうきのふハよくこそ来り給ひて悦ひ少からす是ハその時に参らす／べかりしかどいそき帰られけれバ今朝持せおくり参らすとて唐紙二束／烟草十玉を越したりさるべくいらえして夷を戻しつたはこをバ人〻にも／分ちとらせぬ此人のものいふをハさとりかたかりしがをりふし／ビセンこ、にありけれバとりつぎかくよし聞しりぬ／○十四日空晴／ビセン来りさま〳〵の物語のついてにいふかた〳〵のこ、に居給ふ間ハ日毎に／酒のミて打過きしが立(ママ)しこの地を去り帰り給ひてハさる事も叶ハずとて／泣きにけりこれは素直なる人にて我等か事をまめやかに心をつけくれ」（50ウ）ければ日毎に銭少〻あたへけるをかくハいふなりいとふな歎(ママ)きそもし／此地を去りたれバとて近には必来るべしそのうへ爰を打立んもいづれの／時なるやはかりしられすとて又銭をそ取らせける夜酉の終りに万助／表に出て溝のあたりに尿(ユバリ)しゐたたるが(ママ)俄に目眩(クルメ)き心地ふさ／かりてその儘倒れ息絶えけるをしる人なししばらく過て支那人三人／つれて行かゝり此有さまをミて三人して抱きあけもて来りかくと／しらす我驚きシユンチヨーにこのよし告くればいそぎ出来り此さま／を見てビセンに藁(ワラ)を

持来らし扨ビセンして万助を抱き起し立て／裾高く引上け両足を廣け置きかの藁に火を移し股の間へさし入れふすべたれバやがて息出ぬこれを徐（シツカ）に横に伏せて薬を口の中へ」（51オ）吹込その儘寝さしめつればやう〳〵あたゝまり出てものをも打いふ／シユンチヨー附居て薬をあたへなんどしけるが夜半比にハ心地よくなりぬ／いかにやと問へバ外へ出て尿する迚ハ覚えゐたれどその後は何もしらず／今ハわづらハしきふしもなしといふ余りに不思議に思ハれてかゝるたぐひ／しバ〳〵あるにやと尋ねけれバシユンチヨー答てをりふしにつけて／ある事なりかこし（ママ）ハゆバりする所にあらすこの後かまへて心せよといひ／て何の故なるよしハいはざりき○十五日空晴よべ万助ほと〳〵死すべ／かりしかからうじて命助かりし悦ひ又心に悦ふふしあれば彼是／思ひよせて酒肴菓子なんど買と、のへシユンチヨーへもすゝめビセン／初め六人を呼十三人して酒くミかはし祝ひける○十六日空晴沖より」（51ウ）三本柱のチヤンバン（大船）一艘入来り小舟して荷あけたり紫檀黒柤蘇枋／鉄刀木香木科藤牛皮織物薬種のたぐひ川端に山の如く積上け／たるをクロスとも多く来り又いつ地へか運ひ行く思ふに川中水浅くかゝる／大船は入らざるへきを潮の満ちたるをはかりて入来りしなるべし／○十七日空晴昼よりシユンチヨーに具せられ万助徳藏長十郎／五人してハスヤに至る山の邊熱さ堪かたしかのボメントの家に入り／汗拭ひすゞミをるさきに見し庭も作りはてたり石のたゝすまひより／木のけしき心ありげにミゆ此家を出て山を下り河邊へ出れハ人／多く群れ居て岩の上に釣たれ或ハ酒くむも有り我等来たるを見て／指ざし笑ふかしこの大なる岩蔭に若き女男二人立てあるを見れば」（52オ）女草を手折て男のかくしへ（衣の前に物入る袋やう／の処ありそれをいふなり）入るれば男取出して／捨る女又それを拾ひかくしへ入る男取出して捨る事前のごとくす／女又しも取り納めかくしへ入れけるをこたびハ男取出しおしいたゞき／これをわれとかくしへおし入れたるを見て女悦びよりそひていたぎつき（ママ）／物語するさまなるがやかて立分れ男ハ山路を上り去るを女その姿の／かくるゝまで見おくりさて大勢の中へ入り酒のミて遊ひゐたりこは／打捨られてしも思ひかへじとのちかひなるべし是よりポルトガヘシに出て／日くれて戻り着きぬ今日も何事にや日くれけれバ家毎の棟に蝋燭／をともしつれたり○十八日空晴る朝支那人来りて我〳〵が行李の／数をしるし出すへしといふ其むね心得てむしろ包十三大小柳行李」（52ウ）十三中箱四ツ風呂敷包六ツと記し出しければ取て帰りぬしバしありて／笠被りし支那人二人来りシユンチヨーに逢て十三人の者具して来る／べし今日コントンに送りつかハすなりといふかねてハいつ爰を打立／べきと待侘しが今ハと聞てさすがに名残をしくて涙を流しシユン／チヨー初めミユーソフ、カーレンニ至る迚此程の情ふかくもてなされしを／むくひのべ別れを告れバいづれも聲を揚て手を取て分れを惜む／中にもビセンテー年わかきにも似ずかなしミて長崎に帰りえたらん／にハそのよし文にかき便りつけて申越せかしなどかきくどきまた／近きあたり日ごとに面を見しりたる人〻も入来りて名残をおしミ／いとまを告（マヲ）すかくする間に支那人クロス大勢をつれて参り荷物負せ」（53オ）て持出しとく〳〵と催せばこれにひかれて十三人打立行にシユンチヨーも／ともに引そひて来に来りかくて支那の公館に出けれバ左堂一人出て／我等を皆召し出し日本へ送りやらん為に今日まつコントンへつかハす／なればいそき船におもむくべきよしいひわたさるかたじけなきむね／を申て立出つるに支那人我〳〵をつれて川端に至る川邊に百石つミ斗ン

／の船二艘つなきたるその一ツの船へ乗せらるシユンチヨーより高サ二尺／斗の臺に菓子多く入て船の中つれ〳〵なるをりふしの為とてお／くらるこゝにてシユンチヨーにもいとまつけて分れけりしバしありて／左堂を初め官人多く来り今一ツの船にのり又我等が船へ乗入るも／ありけりかねてハいつしかと思ひたりし事のかく俄にすミはてゝ今日」（53ウ）船に打乗れバ明日よりハ古郷の空も近うやなりぬべきと心の中いさミ／悦ひ思ふ去りし四月の廿六日にこゝに来り五十二日にして今日船に／のりぬ／

按するにカヾヤンてふ國の名さだがならす（ママ）利瑪竇が六扁の地図に／ハ呂宋の域内にハゝヤンてふ名ありまた波廉帝應か地圖には／其所にカヾヤンとありしかれバ利瑪竇がハ、ヤンとしるしたるハ／やがて波廉帝應のカヾヤンなる事ハしられたり今八丈人等がいふ／を聞にカヾヤンを開帆し呂宋のマニーランに至る凡四百里許／その間にパタンといふ地を見きといふかくてハ利氏波氏がハ、ヤン共／カヾヤン共しるしたるとは異にて呂宋よりハはるか西南に遠き」（54オ）地なりけり文次郎（筑前の船人明和二乙酉年漂流）がカヾヤン漂流記にしるし／たるも呂宋域内にあらて海島にて呂宋より管領するよし／また長左衛門か巴旦漂流記（尾張の人寛文八年漂流）にカグヤアといふ所あり／巴旦より二十里餘りへだてし地也としるしたるは今八丈人のいた／りしカヾヤンなるべしカとクとハしたしう轉する音にてヤー／といへるもヤンにゆきやすければおのつから轉訛するなり宇治／甚助が記（備前の人文化十三年／庚寅巴旦漂流）に巴旦の言語をしるしたると八丈人／の認め来つるカ、ヤン詞と同しきが間（マヽ）あれバその近き國なる／をしられたり（徳兵衛宗正が記に天竺マカタ国としるしたるハマラツカにハ／あらざるが彼記／記に出たると八丈人の覚えたるに同し中に数字の番語を出したるが甚助が／きが多しマラツカハ巴旦と堺を／接していと近き所なり我古へ天竺といひたるハ暹羅古城巴旦瑟牛呂宋）」（54ウ）カヾヤンなんど／さしていへるなり扨地図によりて巴旦近く多くの島嶼あるを尋ぬるに／カルと云島の外ハカグヤアと云島なし又それに類する名もあらず／されどカグヤーは此カルとも思ハれず意ふにカヾヤンハ呂宋に隷（カヽ）／れる島なれハ彼地図を製（ツクル）る（ママ）にあたつて筆をとるもの誤て／そが域内にしるしたる歟はた同し名の二所にありて一ハ地圖に／もらしつる歟いまだしるべからずとまれかくまれこゝより漂ひ行／しは海島のカヾヤンなるハ疑をいるべきなし（カヾヤンノ名ハ文次郎／長左衛門等が記と八丈人／のいふ所と相符（カナ）へバひが聞せしとも思はれず又海島／なるハアントンユーか一虎口をなして示せるニてもしらるゝ）かくてカヾヤンを巴旦／近き國とすればそのあたりなる暹羅麻喇加の所属なるべき／をいかで遠く呂宋の統轄（スベクヽリ）をうけたるといふにこは思ひ解こと」（55オ）あり此わたりの国〻は總て伊斯巴尼亜来て威服し呂宋を／本據としてかしこに官長を置き指揮するによるなるべし／扨巴旦より呂宋迠ハ緯度二十度に近けれハ八丈人の四百里許と／いふに符はす船人の里程を覚え違へるならん前に挙たるカヾヤン／の図ハ儀兵衛が画く所なり纔にその經歴したるのミをしる／すまたカヾヤンより呂宋にいたる海路の図も同く彼がしるす／ものにて信（ウケ）かたきがあれとしバらく爰に揚けて後に／全圖を得るをまつマニーランの如きハ大に波氏の圖に符へりと／いふべし／

呂宋は一ツの海国にて我大八洲にくらぶれは小なりけめむかしより」（55ウ）こゝにいひも傳へ聞もなれたる國にて今ハ伊斯巴尼亜の人来り栖ミ近き／島嶼を掟するなり西洋紀聞にタシ（ママ）ローデの言を載て云／ロクソン（ロソンとも云漢には呂宋と訳す吾俗にはルスンといふオーランド人ハ／タルコー

ニヤともいふ　按るにハレンテー／ニヤとしるしはチイナのカンタンの南にインが地図にハロソン又ロソー／インが地図にマニルラスとしるしありチイナは支那なり／カンタンは廣東なり／その國の／南土をマテヤといひ又マネラともいふ　マネラ我俗マンエイラと云漢に瑪泥児冴と訳す○按にハレンテー／たり長左衛門か記にテーランと記し／儀兵衛かマニーラン宇治甚助かマネイランといふハ己聞くところによるなり古の時その／主あり近世以来イスバニヤ人併せ得てその人をして國事を治めしむ／其西南の地に銀を産する山ありイスパニヤの人これを採らしむ／チイナ人来り採るもの十二万許也本此國の人皆裸体にしてわつかに／樹の皮を以て前後を遮るに其人また禽獣に相遠からすイスバニヤ」(56オ)の人こゝに至るに及んて其生養の道を得るのミにあらず我教ある／事をも知りぬ國人挙て本國に内属せん事を望ミ請ふ或人諫めて／相去る事萬里にして彼國を治めん事ハ我財用もまたつぐへか／らす棄んニはしかじといふ本國の君聞かず海外の人をして活きて／その生を安くし死してその苦ミをまぬかれしめんには我デウス／とは／造物主を云即／天主をいふなりの恩に報ふ所すくなからずといひて終ニその請ふ／所をゆるされき此餘ノーワイスパニヤ／新イスパニヤ／ノ義なりゴア、アマカワ／即マカヲを云／の／如き其地を借て海船互市の事を便するより始りて彼化に帰せ／し也すべてその國を侵し奪ひしなといふにハあらずと云君美按ニ／慶長年間しきりに我国に聘せし呂宋國といふはミなこれイスパニヤ」(56ウ)人のかしこに在しもの、使なり云〻／

今ハレンテーインの図を摸してこゝに掲げて見やすからしむ／マカヲは漢字に阿嫣港澳門なと書し我古へにはアマカハといひ／て北は廣東の香山縣に隣り西南は交趾近きたる地なり本／波児杜瓦尓の人此海口の地を借り人を移し海船に便せしを後には／伊斯巴尼亜人こゝによる白石云ホルトカル人始てゴアの地に據て終に／廣東海口の地を借り其人を分ちをき海船の事を管しむ慶長／元和の間西域國総丘巡國務事と称し或ハ西域國奉行天川港／知府事と称して歳〻朝貢せしハ即是ポルカル人の此地に在し／もの共也云〻今ハレンテーインの國を出して始に挙てされと八丈人又ハ」(57オ)宇治甚助等か記に讒に一川を隔て香山縣に接しはた海湾／に港を設けしさまなれバ此図と違あるに似たり猶全圖を見／ん事を希ふのミ又八丈人か認め来りしハスヤ、ポルトカヘシなどいふは／イスパニヤ、ポルトガルの名の残れるを聞誤りせしにハあらぬ歟」(57ウ)

図上河中に屈曲して朱線／を引きたるは八丈人の通行せ／しをしるしたるなり此圖は／水戸の久保氏か著したるもの／を縮めたれは大に違ふ所なき／事能はす只その大概をしる／らんがために仮にこゝに出す／精しき事は猶後考をまつ」(58オ)

廣東省は古への南越の地にて秦にハ南海郡といひ又昔し／此わたりを総て嶺南と呼ひし所なりこゝより北京に至るに舟行／にてハ七千八百三十五里陸行は六千里といふ北極出地二十五度にあたりて／廣東省城は夏至線の下にあり／

福建省ハ古への閩越の地にて北極出地二十六度にあり／

江西省はいにしへの楚の地また三國の荆州にして今の南昌府は即唐の／洪邢府也北極出地二十九度にあたる／

浙江省ハいにしへの呉の地にて宋帝江を渡りてこゝに都す名浦八平／湖縣の中なり北極出地三十度にあたる」(58ウ)

文祿年間の図
東
日本海
夏至線
西